

シンプレクティック等質空間と 非コンパクト単純リー群*

坊向 伸隆

大阪市立大学 数学研究所 COE 研究所員

1 目的.

この報告書は, 推移的に作用する群 G が非コンパクト連結実半単純かつそのイソトロピー部分群 H がコンパクトなるシンプレクティック等質空間 (G, H, Ω) の構造を解明することを目的としている.

2 準備.

シンプレクティック等質空間 (G, H, Ω) とは, 1974 年に Bon-Yao Chu 氏 (cf. [2]) により提唱された概念であり その定義は次で与えられる:

定義 2.1 . (G, H, Ω) がシンプレクティック等質空間であるとは,

$\stackrel{\text{def.}}{\iff}$

- (1) G : 連結実リー群;
- (2) H : G の閉連結部分群;
- (3) Ω : 等質空間 G/H 上の G -不変なシンプレクティック形式.

* This report is supported by the 21 COE program “Constitution of wide-angle mathematical basis focused on knots.”

注意 2.1 . この報告書では, 0-次元多様体もシンプレクティック等質空間とみなす. また, 全てのリー群 G は有限次元とする. そして, 第 3 章では G の中心は有限であると仮定する.

まず命題 2.1 を与える.

命題 2.1 . G が半単純なるシンプレクティック等質空間 (G, H, Ω) に対して, 次を満たす一意的な元 $Z \in \mathfrak{g}$ が存在する:

$$(G, H, \Omega) = (G, C_G(Z)_0, \Omega_Z).$$

ただし, $C_G(Z)_0$ は Z の G における中心化群 $C_G(Z) = \{g \in G \mid \text{Ad}(g)Z = Z\}$ の単位連結成分を表す.

ここで, Ω_Z は, 原点 $o = \pi(e)$ において,

$$(\Omega_Z)_o(u, v) := B_{\mathfrak{g}}(Z, [X, Y])$$

for $u = \pi_{*e}X_e, v = \pi_{*e}Y_e \in T_o(G/C_G(Z)_0)$ ($X, Y \in \mathfrak{g}$) と定義されている. ただし, π は G から $G/C_G(Z)_0$ の上への射影を表し, $B_{\mathfrak{g}}$ は \mathfrak{g} のキリング形式を表す.

この命題 2.1 から次のことが分かる: 連結実半単純リー群 G を一つ固定しシンプレクティック等質空間 $(G, H, \Omega) = (G, C_G(Z)_0, \Omega_Z)$ ($\exists Z \in \mathfrak{g}$) を考察する際, 等質空間 $G/H = G/C_G(Z)_0$ の性質 [e.g. H がコンパクト, G/H は擬ケーラー等質空間, etc.] により元 Z の性質 [e.g. Z は楕円元, Z は半単純元, etc.] が定まっていると考えられる. 逆に, Z の性質により $G/H = G/C_G(Z)_0$ の性質が定まっているとも考えられる.

3 結果.

非コンパクト連結実半単純リー群 G を一つ固定する. 第 2 章の考察の下, シンプレクティック等質空間 $(G, H, \Omega) = (G, C_G(Z)_0, \Omega_Z)$ ($\exists Z \in \mathfrak{g}$) に対して, 「 $H = C_G(Z)_0$ がコンパクトならば, Z はどのような性質をもつ

のか？」また逆に、「 Z がどのような性質をもてば $H = C_G(Z)_0$ はコンパクトになるのか？」を考察する。

$H = C_G(Z)_0$ がコンパクトであると仮定する。 G は連結半単純リー群より、 H を含む G の極大コンパクト部分群 K が存在する。更に、 \mathfrak{k} を K のリー代数とし $\mathfrak{p} := \{X \in \mathfrak{g} \mid B_{\mathfrak{g}}(X, Y) = 0 \text{ for all } Y \in \mathfrak{k}\}$ とおくと、 \mathfrak{g} のカルタン分解 $\mathfrak{g} = \mathfrak{k} \oplus \mathfrak{p}$ を得ることが出来る。 $H = C_G(Z)_0$ のリー代数 \mathfrak{h} は $\{X \in \mathfrak{g} \mid [Z, X] = 0\}$ であるので、 $\mathfrak{h} \subset \mathfrak{k}$ と $[\mathfrak{k}, \mathfrak{p}] \subset \mathfrak{p}$ より、 Z は次の性質をもつことが分かる：

- (a) $Z \in \mathfrak{k}$;
- (b) $\text{ad}_{\mathfrak{g}}Z|_{\mathfrak{p}} : \mathfrak{p} \longrightarrow \mathfrak{p}$ 線形同型.

注意 3.1 . G は非コンパクトなので $\mathfrak{p} \neq \{0\}$ であることに注意する。

逆に、元 Z が次の性質 (a), (b) をもつと仮定する：

- (a) $Z \in \mathfrak{k}'$;
- (b) $\text{ad}_{\mathfrak{g}}Z|_{\mathfrak{p}'} : \mathfrak{p}' \longrightarrow \mathfrak{p}'$ 線形同型.

ただし、 $\mathfrak{g} = \mathfrak{k}' \oplus \mathfrak{p}'$ は \mathfrak{g} のカルタン分解.

G は連結半単純リー群なので、 \mathfrak{k}' をリー代数にもつ G の極大コンパクト部分群 K' が存在し、 $K' \times \mathfrak{p}'$ と G は写像 $(k', X') \mapsto k' \cdot \exp X'$ により微分同型となる。そのことから、(a) と (b) より、 $C_G(Z)_0 = C_G(Z) = C_{K'}(Z)$ となり $H = C_G(Z)_0$ はコンパクトとなる。

以上により、「 G が非コンパクト半単純なるシンプレクティック等質空間 $(G, H, \Omega) = (G, C_G(Z)_0, \Omega_Z)$ に対して、 $H = C_G(Z)_0$ がコンパクトであるならば Z は (a), (b) を満たす。そして、逆も成立する」ことが分かる。

4 余談.

非コンパクト実半単純リー代数 \mathfrak{g} を一つ固定する。そのカルタン分解 $\mathfrak{g} = \mathfrak{k} \oplus \mathfrak{p}$ に対して、(a), (b) を満たす元全体からなる \mathfrak{g} の部分集合を

$AB_{\mathfrak{k} \oplus \mathfrak{p}}$ とする, i.e. $AB_{\mathfrak{k} \oplus \mathfrak{p}} := \{Z \in \mathfrak{k} \mid \text{ad}_g Z|_{\mathfrak{p}} : \mathfrak{p} \rightarrow \mathfrak{p} \text{ 線形同型}\}$. また, 別のカルタン分解 $\mathfrak{g} = \mathfrak{k}' \oplus \mathfrak{p}'$ に対しても同様に $AB_{\mathfrak{k}' \oplus \mathfrak{p}'}$ を定義しておく. このとき, 次を満たす \mathfrak{g} の内部自己同型写像 ψ が存在する:

$$\psi(AB_{\mathfrak{k} \oplus \mathfrak{p}}) = AB_{\mathfrak{k}' \oplus \mathfrak{p}'}$$

このことから, $AB_{\mathfrak{k} \oplus \mathfrak{p}}$ は \mathfrak{g} を特徴付ける集合である. 例えば, $AB_{\mathfrak{k} \oplus \mathfrak{p}} \neq \emptyset$ ならば, $\text{rank}(\mathfrak{g}) = \text{rank}(\mathfrak{k})$ となり, \mathfrak{g} は次のいずれのリー代数とも同型にならない: $\mathfrak{sl}(n, \mathbb{R})$ with $n \geq 3$, $\mathfrak{su}^*(2n) = \mathfrak{sl}(n, \mathbb{H})$ with $n \geq 2$, $\mathfrak{so}(2i+1, 2n-2i-1)$ with $n \geq 4$ and $0 \leq i \leq n-1$, $\mathfrak{e}_{6(6)}$, $\mathfrak{e}_{6(-26)}$, $(\mathfrak{sl}(n, \mathbb{C}))_{\mathbb{R}}$ with $n \geq 2$, $(\mathfrak{so}(2n+1, \mathbb{C}))_{\mathbb{R}}$ with $n \geq 2$, $(\mathfrak{sp}(n, \mathbb{C}))_{\mathbb{R}}$ with $n \geq 3$, $(\mathfrak{so}(2n, \mathbb{C}))_{\mathbb{R}}$ with $n \geq 4$, $(\mathfrak{g}_2^{\mathbb{C}})_{\mathbb{R}}$, $(\mathfrak{f}_4^{\mathbb{C}})_{\mathbb{R}}$, $(\mathfrak{e}_6^{\mathbb{C}})_{\mathbb{R}}$, $(\mathfrak{e}_7^{\mathbb{C}})_{\mathbb{R}}$, $(\mathfrak{e}_8^{\mathbb{C}})_{\mathbb{R}}$.

参考文献

- [1] N. Boumuki, *Local symplectic homogeneous spaces, and compact semi-simple Lie groups* (preprint).
- [2] B.-Y. Chu, *Symplectic homogeneous spaces*, Trans. Amer. Math. Soc. **197**(1974), 145–159.
- [3] J. Dorfmeister and Z.-D. Guan, *Fine structure of reductive pseudo-Kählerian spaces*, Geom. Dedicata **39**(1991), 321–338.
- [4] S. Helgason, *Differential geometry, Lie groups, and symmetric spaces*, American Mathematical Society, Providence, RI, 2001.
- [5] 金行壮二, *アフィン対称空間入門*, 部分多様体・湯沢 2003 研究会記録集, (2004), 3–34.
- [6] S. Sternberg, *Symplectic homogeneous spaces*, Trans. Amer. Math. Soc. **212**(1975), 113–130.